愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	人と防災		
担当者(Instructors)	西尾 敦史	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

近年,事故や自然現象による災害が数多く報道されており,一般市民の防災に対する意識は高まりつつある。東海地方では,東海・東南海・南海地震の近い将来での発生が危惧されている。災害発生後は自助・公助・共助が必要であり,特に,学生を含めたボランティアは災害復興の大きな力となる。本講義では,防災意識の向上を目標に,建築・地域及び防災の専門の立場から,災害・防災に関する講義を行う。 本講義は「防災士」資格取得に必要な科目である。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義を中心にすすめるが、各回の課題（ワーク）テーマについてアイディア出しのグループワークを行ったり、意見発表や共有のためのディスカッションを行う。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス　防災と人の役割について	防災の使命・人の役割についての学びの全体像についてガイダンスを行う。	□
第2回	地震・津波による災害	日本列島の地学的理解、地震による被害、長周期地震動による被害	□
第3回	災害関連情報と予報・警報	気象に関する予報、気象や洪水に関する特別警報、注意報、情報。地震や津波に関する情報、火山噴火に関する情報。	□
第4回	被害想定・ハザードマップと避難情報	被害想定とハザードマップ、ハザードマップの種類とその活用	□
第5回	復旧・復興と被災者支援	地域の復旧と復興、阪神・淡路大震災・東日本大震災における復興の課題、復旧・復興のための法体系	□
第6回	災害医療とこころのケア	災害医療の3つのT、PTSDと急性ストレス障害(ASD)、こころのケア、東日本大震災後の災害医療の課題	□
第7回	企業防災と事業継続計画	事業継続計画(BCP)と事業継続マネジメント(BCM)、企業の事業継続計画(BCP)策定の現状と政府の目標	□
第8回	風水害・土砂災害等への備え	身近でできる防災対策、地震、風水害、土砂災害に備えて事前にやるべきこと、そのときあなたはどうする？	□
第9回	自主防災活動と地区防災計画	自主防災組織、企業と自主防災組織の連携、大学・学校を拠点とした活動	□
第10回	地域防災と多様性への配慮	自主防災組織、企業と自主防災組織の連携、大学・学校を拠点とした活動、災害時要配慮者に対する支援	□
第11回	避難所の設置と運営協力	避難所運営と仮設住宅の暮らし、避難所の開設手順、東日本大震災の仮設住宅の暮らしの現状と課題	□
第12回	災害ボランティア活動	災害ボランティアの多様性、阪神・淡路大震災以降の主な災害ボランディア活動の状況と課題、災害ボランティアの役割	□
第13回	災害と損害保険	地震保険、共済とはどのような保障制度、台風・水害などの風水災に備えるための保険	□
第14回	防災訓練	防災訓練ではどのようなことを行うか、代表的な図上演習、避難所運営ゲーム(HUG)、その他の避難所訓練、クロスロード	□
第15回	授業のふりかえりとまとめ	授業全体をふりかえり、人と防災の役割についてまとめる。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

各回の授業の課題テーマに関して、配布資料などを参考に、書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく（2時間）。 各回の授業後、課題テーマに対する意見共有・ふりかえりを踏まえて、自分自身の意見・見解をまとめておく（2時間）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回の授業の課題テーマに関する意見発表・全体での共有・ふりかえりを踏まえて、コメントを行う。次週の授業において、次のテーマへの関連する視点やポイントについて提示する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◇ 2019人間健康DP2	健康、防災の分野における問題意識をもち解決方策を探求できる。
主体性	◆ 2019人間健康DP3	多様な価値観を有し、自発的に人びとと協働して、防災にあたって地域貢献ができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
		50%	20%	30%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

各回の授業の課題テーマに対する意見・感想の記述

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	「防災士テキスト」日本防災士機構	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		